

シンポジウム

地元を元気にする子どもを育てる

— 創意工夫の実践活動 —

座長：長谷浩也（環太平洋大学 次世代教育学部長・教授）

激変する時代に対応するためには、自ら考え実行できる力、仲間とともに課題に取り組む力、自己コントロールしながらやり抜く力など、これまで以上に「解のない問い」に向かう力が求められています。これまでのように知識や技能を習得することだけでなく、課題を見据え、それらを統合しながら再構成し、様々な体験を通して課題解決に活かすことができるような教育の育成が叫ばれています。しかし、これだけでは、現状の対応だけに留まり、先が見えないように感じるのは私だけではないと思います。

「これからの未来」を感じ、未来を考えることが必要だと考えます。「未来をつくっていく子どもたちの育成」という未来志向の視点が不可欠であると考えております。

視点を現在から未来（次世代）へ誘うことも、教育の大切な役割だと考えます。描いた夢を子どもと共に語り合い、そして言葉を交わし、また、具現化を図っていくべきではないでしょうか？

しかし、その根底には、大人も子どももそれぞれが抱えている壁・障害を他者と「共に乗り越えよう」とする「元気」が必要です。そのためには、「元気を支援」「元気を

演出」「元気をプロデュース」する学校、地域、行政が不可欠となります。もちろん、指導者や保護者の存在が必要なことは言うまでもありません。

本シンポジウムでは、片山聡一市長、徳山順子教育長、中塚志津子統括園長、フィンランド乳幼児研究を研究・実践しておられる山田郁子氏をお迎えしました。それぞれ、地元を元気にし、その中で教育を根幹とされているという点において共通している方々です。

「就学前教育」「カリキュラムの問題」「行政との関わりの問題」などについて議論を深め、「保護者」「学校」「行政」「地域」がそれぞれ「具体的な“夢”を持つこと」「とにかく前に進むこと」の必要性について会場の参加者と共に再確認しました。

ご提案、パネラー同士の質疑応答、参加者からのご意見などにより、「地元を元気にする子どもを育てる」必要性や「そのために取り組むべきこと」などの具体的なイメージを持っていただけたかと思います。

このシンポジウムを機に「未来をつくっていく子どもたちの育成」の視点がより一層深まることを期待しております。



話題提供者

「義務教育だって選択肢があていい」

片岡聡一（総社市市長）

「親育て・子育て・孫育て ～4世代に寄り添った子育て支援とこれからの幼児教育」

中塚志津子（八幡保育園・八幡乳児保育園・浅口はちまん認定子ども園 統括園長）

「すべての子どもに福祉と教育を ～ Leave no child behind」

山田郁子（フィンランド乳幼児研究）

「協働・協学・協育の町づくり ～地域とつながり世界を拓く 早島っ子の育成」

徳山順子（岡山県早島町教育長）